



「森のように見えた木は、そんなに大きな木ではないみたいだね。」



「この木は、いったい何なのかな。」

きょうすけ  
京助さんたちは、図書室に行って、くわしく調べることにしました。

平地に住む人びとは、土地の様子に合わせて、どのような生活をしているのでしょうか。



### 平野（へいや）

ほとんど平らな土地が、広くつづいているところを平野とよびます。

### 盆地（ほんち）

まわりを高い土地にかこまれた、ひくく平らな土地を盆地とよびます。



← もも

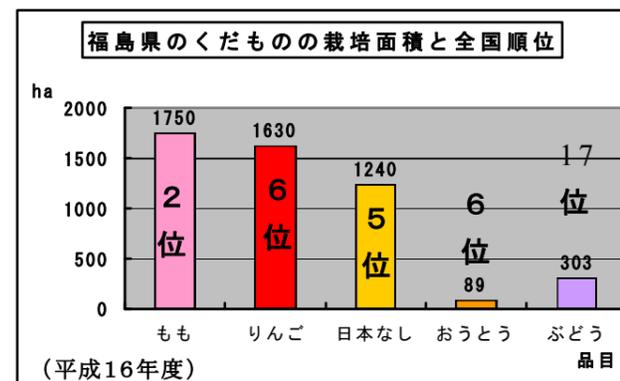
福島盆地では、どのようなくだものづくりがさかんなのでしょう。

## くだものづくりがさかんな福島盆地 ふくしまほんち

福島県は、もも、りんご、なしなど多くのくだものがさいばいされています。

さいばいにてきした気候きこうとよくこえた土であるというじょうけんを生かして広まりました。

県内でも、福島市や伊達市だての地いきで特にさかんにさいばいされています。



## 福島県の市町村の果樹栽培面積の県内順位 かじゅさいばいめんせき じゅんい

品目	1位	2位	3位
もも	福島市	だて市	こおり町
りんご	福島市	だて市	すか川市
日本なし	福島市	すか川市	相馬市
桜桃	福島市	国見町	だて市
ぶどう	福島市	だて市	会津若松市

(平成16年度) ※桜桃(おうとう)



↑ りんご



↑ かき

ももが福島県で本格的にさいばいされるようになったのは、1902年ごろといわれています。あぶくま川ぞいの場所にさいばいされ、広がっていきました。1956年からの11年間は、全国一の面積めんせきでした。しかし、1969年からは、山梨県やまなしについて第2位となっています。

また、本県のなしは、1880年に福島市でさいばいされたのが始まりといわれています。

福島盆地ぼんちのくだもの農家の人たちは、どのようにくだものをさいばいをしているのでしょうか。



せんてい  
実が大きく育つように、えだの一部を切りとります。



てき花  
よぶんな花をつみます。



色づけ  
シートをしき、ももに色をつけます。

ももづくりの仕事はどのようなさされているのでしょうか。

### (1) ももづくり

京助きょうすけさんは、ももづくりについて調べてみました。



「実をたくさんつけるために、えだを切ったり、よぶんな花をつんでしまったりするんだね。」



↑ あかつき



### ももをつくっている方の話

ももは、7月の中ごろから、9月の始めごろまでがしゅうかく時期です。福島県では、「あかつき」というしゅるいのももを作っている畑が多いです。ほかに「はくおう」なども作られています。



### とりいれ

実をきずつけないように、ていねいにとります。



### 選果場

品しつ・つぶの大きさをくべつしてわけます。



### はこづめ

はこづめの仕事をきかいでやります。



### はつが

3月の終わりごろにめが出てきます。



### りんごの花

白い花がさきます。



### はなすぐり

ミツバチを使ってじゅぶんさせます。

福島盆地<sup>ぼんち</sup>でのももづくりは、毎年1月から始められます。実のしゅうかくは夏に行われますが、おいしいももをつくるために冬から準備<sup>じゅんび</sup>をしています。冬の大切な作業に「せん定」というえだを切る仕事があります。次の年に、葉や実によく光があたり、また仕事がしやすいように、冬の間<sup>ふよう</sup>に不要なえだを切り落とします。

### ももの仕事ごよみ

※J A伊達みらい調べ

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
せんてい		てき花		ふくろかけ	ふくろとり・しゅうかく		ひりょう		ひりょう		
草とり・しょうどく(あまりしないように工夫している)											
ももの木のかんり											



### せん定

くだものの木の生育や結実を調節するため、えだの一部を切りとること。

### てき花

よい果実をえるために、適当な数の花だけを残してほかの花をつみとること。

### 選果(せんか)

くだものの実を、大きさやできくあいなどによってえり分けること。

りんごづくりの仕事はどのようされているのでしょうか。

### (2) りんごづくり

さとるさんは、りんごづくりについて調べてみました。



「ぼくのおじいさんの家のあ  
る青森では、9月ころにりん  
ごをとっていたんだけどな。」



↑ ふじ



### りんごをつくっている方の話

おいしいりんご作りのためにたい肥<sup>ひ</sup>をまいています。農薬はできるだけまく回数をへらしています。わたしの畑では「ふじ」という品種のりんごを作っています。気候<sup>きこう</sup>がふじの実の生育にとっても合っているし、水はけのよい土地なのでおいしいりんごができます。



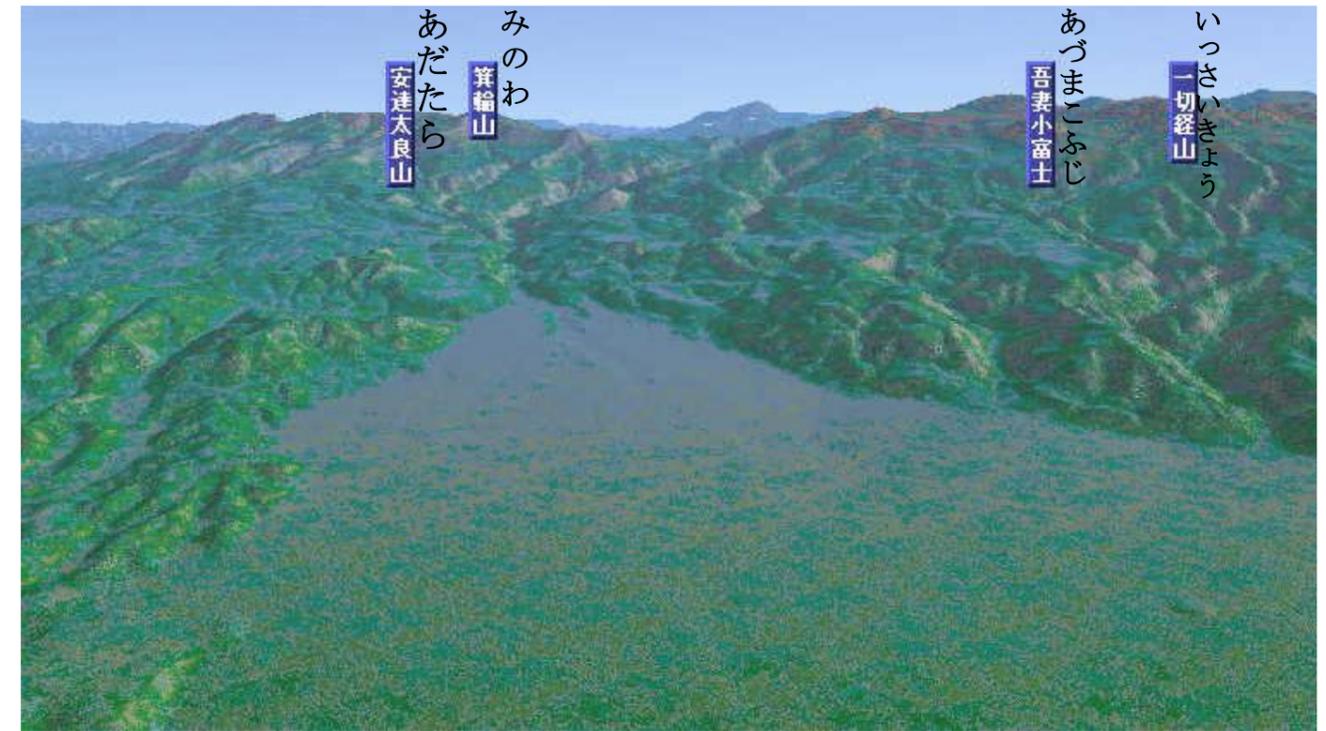
**しょうどく**  
スピードスプレーでさんぶします。



**てき花・てき果**  
大きな実にするため、花や実の数をへらします。



**とりいれ**  
赤く実ったものから取りれていきます。



### 土地に合わせたくらし

福島盆地では、どうしてくだものづくりがさかんになったのでしょうか。

けんたろうくんは、前に書かれていた文章を見て、この地いきでは、どうしてりんご、もも、なしなど多くのくだものがさいばいされているのかぎ問に思いました。

「さいばいにてきした気候って、どういう気候のことなのだろう。」

「どうして、福島盆地はよくこえた土なのだろう。」

けんたろうくんたちは、図書室で調べることにしました。

りんごには、多くの種類があり、実がなる時期もちがいます。福島県では、とくに「ふじ」「つがる」「王林」などがよく作られています。王林は、伊達郡の桑折町で見つけられ名前がつけられた福島県生まれの黄色いりんごです。



↑ 王林

### りんごカレンダー

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
せんてい	花すぐり	ふくろかけ	しょうどく	しょうどく	しょうどく	しょうどく	しょうどく	しょうどく	とりいれ	たいひまき	たいひまき



↑ りんごづくりの1年間

9月	10月	11月
つがる	つがる	つがる
さんさ	さんさ	さんさ
	ジョナゴールド	ジョナゴールド
	王林	王林
	陽光	陽光
		ふじ

⇒ おいしく食べられる時期



りんごは、夏の気温があまり高くない地方にできしています。おもな産地は、年平均気温が8～12℃、4～10月の月平均気温が15～19℃の地方です。また、雨も多くふる場所でよくとれます。

一方、日本なしは、一年の平均気温が12～16℃、育つ期間の平均気温が18～21℃、気温がもっとも低くなる1月の平均気温が1～4℃、最高になる8月の平均気温が24～27℃の地いきに広がっています。

### 福島市の気温

	年平均気温	4～10月の平均気温	1月の平均気温	8月の平均気温
2006年	13.0℃	19.0℃	0.7℃	26.3℃
1977～2006年 30年間	12.9℃	18.8℃	1.4℃	25.2℃



### 福島盆地

福島市と伊達郡・伊達市にまたがる盆地。東側にはあぶくまが流れていて、西側には大小の扇状地がならんでいる。

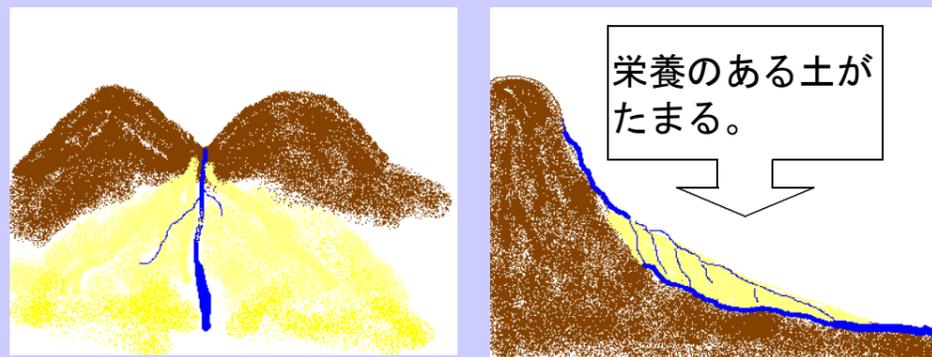


### 扇状地

川が山地から平地へ流れ出る所にできた、すなと小石がたまっただうぎ形の地形。



おうぎ



黄色の部分がせんじょう地。水はけがよく、こえた土である。

## 2 (3)

### 山地の くらしと トマト産業

身のまわりにあるもので、山地に関係のあるものを見つけてみよう。



「わたしは、南郷地区に行ったときにトマト狩りをしました。とてもおいしかったよ。」



「そばって畑で育つ植物からできる食べ物なんだね。」



「パンフレットには、スキー場や温泉のことが出ていたよ。川でつりをしている人もいたよ。」